

2021 年 10 月 24 日 午前 10 時 30 分

聖霊降臨節第 23 主日礼拝

司式 川上 盾 牧師

奏楽 川名ひさ子

＜ サテライト礼拝プログラム ＞

前 奏 黙祷

招きの言葉 詩編 18:1-7

讃美歌 17 「聖なる主の美しさ」(1,2,4 節)

祈り

＜ 関東教区お祈りカレンダー ＞

大貫恵泉教会 鹿島教会 牛久教会

(主の祈り)

聖書 旧約 創世記 2:15-25 (旧 P.3)

新約 マルコ 10:1-12 (新 P.81)

讃美歌 101 「いのちとひかりたもう神よ」 < 献金 >

祝 祷

報告・紹介

◆ 本日の聖書日課によるメッセージ (川上 盾 牧師)

『 夫婦 … 一体となる他者 』

◆ 今週の子定

◎ 本日礼拝後 レインボー説明会

◎ 本日 13:00 CS 礼拝

◎ 30 日(金) 10:00 会堂清掃 D 組

◆ 次週主日礼拝 31 日(日) 10:30

旧約 創世記 4:1-10 (旧 P.5)

新約 I ヨハネ 3:9-18 (新 P.444)

メッセージ 『 こんなわたしのために 』

讃美歌 : 18 523

奏楽 : 金井文子

＜ 本日の聖書日課 ＞

創世記 2:15-25

主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかつた。主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。「ついに、これこそわたしの骨の骨／わたしの肉の肉。これをこそ、女(イシャ)と呼ぼう／まさに、男(イシュ)から取られたものだから。」こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかつた。

マルコによる福音書 10:1-12

イエスはそこを立ち去って、ユダヤ地方とヨルダン川の向こう側に行かれた。群衆がまた集まって来たので、イエスは再びいつものように教えておられた。ファリサイ派の人々が近寄って、「夫が妻を離縁することは、律法に適用しているでしょうか」と尋ねた。イエスを試そうとしたのである。イエスは、「モーセはあなたたちに何と命じたか」と問い返された。彼らは、「モーセは、離縁状を書いて離縁することを許しました」と言った。イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。しかし、天地創造の初めか

ら、神は人を男と女とお造りになった。それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」家に戻ってから、弟子たちがまたこのことについて尋ねた。イエスは言われた。「妻を離縁して他の女を妻にする者は、妻に対して姦通の罪を犯すことになる。夫を離縁して他の男を夫にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

＜ 報告 ＞

◎ レインボープロジェクト説明会

本日礼拝後、開催します。1 年間の話し合いによってたどり着いた理想のプランを実現するためには追加費用がかかることが分かってきました。どの程度の費用を見込めるのか、どのくらい計画を切り詰めるのか、また結論は出ていません。現状を報告し、意見を聞き、理解を得た上で進めていきたいと思ひます。13:00 から CS がありますので、遅くとも 12:00 には終了したいと思ひます。

◎ 召天者記念礼拝 (11 月 7 日)

今年も、既に天に召された方々を覚え、お写真と並べて共に礼拝をささげます。前日(6 日) 会堂清掃終了後、10:30 頃から写真を並べますので、お手伝いいただける方はよろしくお願ひします。墓前礼拝は 11 月 5 日(金)に行ないます。(10:30 墓地清掃 11:00 墓前礼拝)

◎ パイプオルガンゼミ (初心者編)

第 2 回を 11 月 6 日(土) 13:30 より開催します。参加希望の方はご予約下さい。

＜ 先週の集会 ＞

	男性	女性	計	献金
主日礼拝	13	24	37	19,030
婦人会例会	1	12	13	

＜ メッセージ ＞ 『 主我らの王 』

イザヤ 33:17-22、黙示録 7:9-17 (10 月 17 日)

▼ コロナ状況が落ち着いてきて、少しずつ日常が戻ってきた。何度も繰り返される緊急事態宣言に世の終わりを感じた人もいよう。私たちは何か良くないことが続く、この世の終わりがきたのではないかと不安になる。▼ 1980 年代、私の小学生時代であるが、ノストラダムスの大予言が流行った。子どもたちの間でも 1999 年に世界が滅びると信じられていた。当時 1 年先の自分すら想像できない年齢であった私でも、計算して「24 歳で死ぬのか」と遠く先のことを思ひ悩んでいた。しかし実際には 1999 年に世界が滅びることはなかったし、2000 年に変わるときに起こるだろうとされていた様々な事柄も何も起こらずに終わった。私たちは電話でも信じて不安になる。怖く思ひをする。▼ 2000 年前の原始キリスト教会の人々は神を信じて、本心に思ひをしてきた。できたばかりのキリスト教血なまぐさい迫害に遭っていた。そしてさらにこれからローマからの迫害に遭おうとしていたこのときに、ヨハネの黙示録が書かれた。そこには、世界の終わり、神の裁きの開始、神によって永遠の救へと選ばれた者たちの救いの開始が、様々な女を通して描かれている。▼ 今日の聖書日課はその一場面。白い衣を着た大群衆が手ひなつめやしの杖を持ち、玉座と子羊の前で大声で神を賛美している様子が語られている。彼らは「大きな苦難を通ってきた者(新約聖書解説では彼らは苦難を体験しただけでなく、今やその苦難から離れている、すなわち殉教の死を遂げた忠実な僕たちであると説明している)」地上での忠実な信仰生活を全うした彼らは何の危険もない神の庇護の元に置かれている。辛く苦しみの中にある民にとってはパラダイスのように見える世界が、神に召された後の世界として広がっている。彼らにとってこれほどいほどの希望であったのだろうか。▼ 旧約、イザヤ書でもアッシリアによって苦しめられていたイスラエルに対して「まことに、主我らを正しく裁かれる方。主我らに法を与える方。主我らの王となって、我らを救われる。」と語られ、必ず救い主が現れることが約束され、彼らの大いなる希望となっている。そして本当に救い主が現れ、我らを救い、我らの罪のため十字架につけられ、復活された。その後、キリスト教が生まれ、今に至っている。▼ 主が我らの王として、私たちを守り導いて下さる世界。その世界を遙く遠くに仰ぎ見ながらも、そこに希望を置くだけでなく、今の生き方も大切にしたいと思ひます。▼ 「♪ 主よ終わりのまでもとして、あなたに仕えたい(讃美歌 21 510 番)」与えられた命の終わりのまで、そして召された後も主を我らの王として仕える者でありたい。